

新しい年 続けることで目標に迫る年に

校長 玉田 絹夫

新年 あけまして おめでとうございます

締めくくりの3学期が始まり、子どもたちの「笑顔であいさつ」の元気な声が、学校に帰ってきました。3学期も「子どもたちの笑顔あふれる学校」になるように取り組んで参りますので、今後ともご協力をお願いいたします。

昨年12月に発表された平成30年を象徴する漢字は「災」でした。確かに、昨年は、災いの多い年でした。6月18日の朝には多くの犠牲者が出た「大阪府北部地震」があり、本校でも登校時間だったので大変心配しました。と同時にブロック塀の安全性が心配され、本校も2カ所のブロック塀が撤去になりました。また、本校も避難所開設となった7月「西日本豪雨」による被害、9月「北海道胆振東部地震」による山崩れや北海道全域のブラックアウト、関空などに大きな被害をもたらした9月「台風21号」というように大きな災害が次から次へと起こった年でした。本校も災害に対しての物心両面の備えについて考えさせられた年でもありました。そんな中、「そだね～」が平成30年の流行語大賞に選ばれたことは、オリンピックの感動を思い出させてくれる明るい話題になったのではないのでしょうか。

今年は経済では10月から消費税10%、スポーツでは6月にサッカー女子ワールドカップがフランスで、9月にラグビーワールドカップが日本で開催と大きなことが続きます。始まったばかりの新しい年2019年は、平成が終わり新元号元年の年でもあります。学校教育において新指導要領完全実施を控え、移行期の2年目であり、新しい気持のスタートには、いい機会ではないのでしょうか。そこで、新しい年の初めに際して、子どもたちには、「笑顔であいさつ」をしっかりと続けてほしいと願っています。子どもたちからも「あいさつをしても、されても、ほっこりした気持ちになる。」という声を聞きます。やっぱり「朝のあいさつ おはようございます。」「帰りのあいさつ さようなら」。そして、「あやまるあいさつ ごめんなさい。」「気持ちを伝えるあいさつ うれしかった、助かった。」「感謝のあいさつ ありがとう。」は、大切な心のこもった言葉です。大人も子どもも言われても言ってもうれしい言葉、ほっこりする言葉、今年も大切に使い続けるようにしていきましょう。

また、4月から子どもたちに言っている『やってみよう』も、新年にふさわしいことだと考えています。12月の終業式では「1月になったら、小さなことでも大きな目標でもいいので、今年の『やってみよう』を決めてね。」と言っています。子どもには夢や目標が必要です。それに向かって頑張ることが、力を付けることになり、達成感が次への意欲にもなります。12月にある子どもが「校長先生、私、逆上がりができたよ。」と目を輝かせて教えてくれました。もちろん「すごいな。頑張ったね。おめでとう。」とほめました。その子は、うれしそうに教室へ。また、「校長先生、九九のさがり六の段を覚えたよ。」と、別の子はうれしそうにとなえてくれました。「すごいやん。しっかり言えたね。えらい。」と、私もうれしくなってほめました。もちろん、どの子もそこで満足しきるわけではなく、次の課題がやって来たらしっかり取り組むことでしょう。こうやって子どもは1つ1つ階段を上っていけるのではないのでしょうか。

新年の始めに、私が3年間言い続けていることを再び書かせていただきました。それは、『言い続ける』『やり続ける』ことで、自分も周りもいつの間にか「できるんだ」「やれるんだ」と思い出して、『きっと願いは叶う』と信じているからです。今年も子どもの成長を願って、ご協力お願いいたします。

